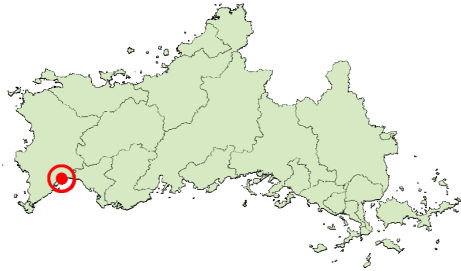




## 王司地区について

王司地区は、山口県西部の下関市にあり、瀬戸内海側の周防灘に面す。地先には、木屋川や神田川により形成された広大な前浜干潟が広がり、その背後には江戸時代以降の干拓事業によってつくられた水田地帯が広がる。



## 干潟の現況

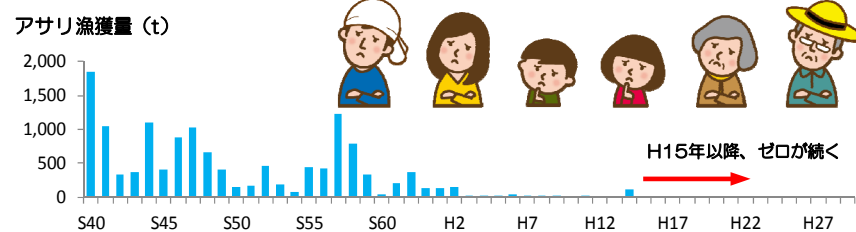
地先の干潟では、かつて、採貝漁業やノリ養殖業など干潟を利用した漁業が盛んに営まれていた。

しかし、現在の地区の主な漁業種類は、カニかごや一本釣り、建網であり、干潟で営まれた漁業は大きく衰退している。

下図に、王司地区のアサリ漁獲量の推移を示した。地区のアサリ漁獲量は、昭和50年代までは300トンを超える年が多くみられた。しかし、60年代から漁獲量が減少しはじめ、その後も回復することなく減り続け、平成15年以降は統計上「ゼロ」が続く。

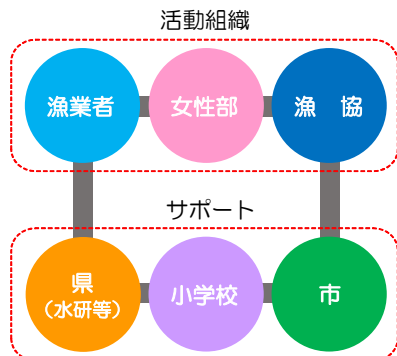
また、干潟では、40年以上前から組合の女性部が中心となり、地元小学校を対象に「海浜学習」を開催している。この学習会に参加した児童から「どうしてアサリがないの?」「とれなくなったの?」などの意見が、最近、多く聞かれるようになった。

将来の子どもたちに豊かな干潟を残す意味でも、その再生に向けた取り組みが喫緊の課題となっている。



## アサリ資源の再生に向けた活動のスタート

干潟漁業の復活を願う漁業者と、子どもたちが笑顔になる潮干狩りを体験させ、それを通じて干潟の魅力やその保全を伝えたい漁協女性部が主体となり平成21年度に「王司干潟改良グループ」を設立し、アサリ資源の再生を軸とした取り組みをスタートした。



### ●活動方針

- 干潟の耕うん** 還元化・効果した底質を改善する
- 干潟への竹立て** アサリ幼生の着底を促進し、砂の移動を抑制する
- 母貝団地づくり** アサリ種苗を移植し、被覆網で保護・育成し、親貝不足を解消する
- ツメタガイ除去** 食害生物を除去し、アサリの生残率を向上させる

## 再生活動の内容

### (1) アサリ資源の再生活動

アサリ資源再生の取り組みは、約12haの活動エリアの中に1haの区画を設け、その中で、①耕うん、②竹立て、③母貝団地づくりを行うことにしている。そして、この区画を5ヶ年計画で、毎年1つずつ増やし、無理のない範囲で着実に計画的に資源の再生を図る。また、活動エリア全域(12ha)では、アサリを食すツメタガイの生息密度を減らす目的で、毎年ツメタガイの除去を行っている。



### (2) 普及啓発活動

当該地区では、地元小学校の全児童を対象に「海浜学習(海浜清掃・潮干狩り体験)」を40年以上前から行っている。この学習会に加えて、平成24年度からは小学校5年生児童を対象に、ツメタガイ除去の体験学習を開催し、干潟の現状やその保全の大切さについてより深く理解してもらうことにしている。

この体験学習では、最初にツメタガイがどのような貝なのか、なぜ除去活動を行うのか事前に授業を行い、その後、実際に漁業者と一緒に除去作業を行ってもらう。



## 活動の成果と課題

水産多面的機能発揮対策事業が本格化した平成28年度以降に対策を講じた区画は、合計4ha。各区画内のアサリの平均密度は、平成30年度2月調査で、対照区より高い状況にある。また、各区画では産卵に貢献する殻長20mm以上のアサリが多く確認できた。ただ、アサリ資源の再生はまだ道半ばであり、今後も継続して活動を進める必要がある。

体験学習については、全ての児童がツメタガイ除去の必要性について理解を示した。こうした草の根活動を今後も継続し、子どもたちに干潟の大切さやその保全の継承を図っていききたい。

